

九 紫式部

紫式部は、小さい頃から學問がすきで、兄の學問してゐるのをそばで見て、兄よりも早くおぼえたほどでした。式部の書いた、有名な「源氏物語」は、後の世の人にまでよまれてゐますが、これは近江の石山寺で書いたのださうです。(凡そ九百五十年前の人)

八 菅原道真

道真は、右大臣にまで出世した人ですが、人にねたまれて、つみもないのに、九州へながされてしまひました。が、忠義な人でしたから、天子様からいたゞいた御衣を、毎日さうぎて、はるかに都の方ををがみました。道真は、後、天神様とまつられ、學問の神様とあがめられてゐます。(凡そ千三百年前の人)

七 弘法大師

弘法大師は、大それた坊さんで、日本中をまはつて佛の教をひろめ、世のため、人のためになることを澤山やりましたので、今でも、大師様といつて人々があがめてゐます。大師はまた、字をかくことが上手で、いろは四十八字の平かなも、大師がはじめてつくつたのだといはれてゐます。(凡そ千百年前の人)

六 傳教大師

たいていの坊さんが、ぜいたくをしてなまけてゐたころ、傳教大師は、ふかい山に、小屋をつくつて、一心に修行しました。行ひ正しく修行をつんだので、多くの弟子があつたり、世の人から尊ばれました。京都のそばの比叡山に延暦寺といふ寺をたて、天台宗といふ教をはじめてひろめた方です。(千四百四十年前の人)

五 坂上田村麻呂

昔、日本の東の方に、蝦夷といふ賊がゐましたが、つよいので、なか／＼征伐することができませんでした。田村麻呂は、これを征伐して大てがらを立てた人です。今、京都にある將軍塚といふのは、この田村麻呂の墓で、御所をまもる神といはれてゐます。(千二百五十年前の人)

四 和氣清麻呂

昔、弓削道鏡といふ坊さんが、宮中でたいへん悪いことをたくさんしました。そのとき、和氣清麻呂は宇佐八幡宮におまゐりして「道鏡の考へは悪いことである」と、神様のお教をそのまゝ天子様に申し上げました。清麻呂は、道鏡の勢をおおそれず、悪だくみをくじき、國をまもつた大忠臣です。(凡そ千四百年前の人)

三 柿本人麻呂

わが國は、むかしから歌をよむことが盛んな國で、歌の學問は、わけでも大切なものとされてゐましたから、すぐれた歌よみが、澤山でました。その中でも、柿本人麻呂は、歌の神様といはれる人です。(凡そ千二百年前の人)

二 藤原鎌足

蘇我入鹿は不忠者、けれども非常に勢ひがつよから、誰もおそれてゐたが、藤原鎌足は中大兄皇子をお助けして、入鹿を討取りました。その後、鎌足は大臣となつて、よい政治のもとをたて、國のためにつくしました。鎌足は藤原氏の先祖でその子孫は非常に榮えました。(凡そ千二百年前の人)

一 武内宿禰

武内宿禰は、三百年も長生したと、つたへられてゐます。五代の天子様につかへて、大臣をつとめたえらい方です。ことに、仲哀天皇の時、天皇は賊との戦の最中におかれあそばされましたが、宿禰は、神功皇后をおたすけ申して、賊をたすけてゐた、三韓を征伐して、降参させました。(凡そ千五百年前の人)

一八 楠木正成

正成は、天子様の御爲に、命をなげだして、まづ先に賊と戦ひました。正成ははかりごとの名人で、いつも、わづかの兵で、何萬の賊軍をさん／＼に苦しめました。残念にも、湊川で討死しましたが、その時も「七度も生まれかはつて、忠義をつくすぞ」といひました。正成は、じつに忠義な人でした。(凡そ六百年前の人)

一七 北條時宗

蒙古王が日本をあとどり、無禮の使をよこした時に、北條時宗は、使を斬つて、戦争の用意をしました。十餘萬の蒙古勢が攻めよせると、はげしくふせいでうちやぶりました。敵はまた上にくる大膽で、海にしづみしました。時宗はかしこく大膽で、日本の強いことを、敵に知らせたつよい大將です。(凡そ六百年前の人)

一六 日蓮上人

日蓮の教へる法華經といふのは、わるい教であるといふので、時の役人は、上人を鎌倉の龍口といふ所で、打首にしようとしたが、その時急に空があられて役人の刀は折れてしまひました。上人は又佐渡へ島流しにされたりしましたが、屈せず「南無妙法蓮華經」と、となへながら法華經をひろめました。(六百六十年前の人)

一五 親鸞上人

浄土真宗の寺は、國々にすゑふん多いが、本山は本願寺で、開祖は親鸞上人です。上人ははじめは、むじつの罪で越後の國へ流されたが、そこで教をひろめ、それがよい教であることがわかつて、ゆるされて都へ歸り、いよく／＼えらいお方だと、世の人から尊ばれるやうになりました。(凡そ六百八十年前の人)

一四 源頼朝

源頼朝は十三の時、平家との戦で大勢の敵にかこまれましたが、おそれず斬りはらつてかけぬけました。あとで平家に捕へられ、伊豆へ追ひやられました。後には味方をあつめて源氏の大將となり、平家をほろぼして、鎌倉に幕府(政治を行ふところ)をたて、征夷大將軍となり日本中を治めました。(凡そ七百四十年前の人)

一三 源義經

義經は、戦の上手な大將でした。「谷の城をせめた時、兵を二手にわけて一手の兵に表からかゝらせ、自分は一手の兵をつれて、城のうしろの鶴越にむかひました。こゝは、けはしいがけでしたから、敵が全くゆだんしてゐるところを、ふいかけ下りて、敵をさん／＼にうちやぶりました。(七百四十年前の人)

一二 平重盛

平重盛が、後白河天皇に不忠な考へをおこし、兵士をあつめた時に、その子の重盛は、「さういふ不忠なことをなさるなら、私の首をきつて下さい」と、命がけでいさめておしとめしました。重盛は、忠義ぶかく、本當の親孝行の道をつくしたえらい方です。(凡そ七百年前の人)

一一 源為朝

弓の名人で、戦の上手な爲朝は、十五の時に九州中をせめ平げ、鎮西八郎と名のりました。後、敵のために伊豆の大島にながされると、こんどは、大島の大將になり、敵方がせめよせると、爲朝は、とくいのつよい弓で、敵の大船を、たゞ一矢でしづめてしまひました。(凡そ七百年前の人)

一〇 清少納言

清少納言は、紫式部とおなじ頃「枕草子」といふ名高い本を書いた人です。宮中にお仕へしてゐましたが、ある時皇后様が、支那の歌を一口仰せになると、すぐたつてその詩にあるとほりにみずをまきあげて、雪景色をあらにいました。皇后様は、そのふかい學問と、かしこいの大へんおほめになりました。(凡そ九百五十年前の人)

二七 織田信長

四萬の大敵がおしよせる。味方の城々があぶない。けれども織田信長はおそれない。僅かな人数で近道をとり、大風大雨を幸ひに、桶狭間の敵の本陣に討入つて、大將今川義元を討取りました。それからすばらしい勢で、二十餘國國を従へました。大それた天子様に忠義をつくし、右大臣にまで出世しました。(凡そ三百六十年前の人)

二六 上杉謙信

上杉謙信は、越後にゐた大將で、武田信玄と、たび／＼川中島で戦ひました。一度は、謙信が、信玄の本陣まできこんで、大將同志一騎打をするほどのげいし戦をしました。謙信はまた、この亂れた世の中でも、忠義をわすれず、敵の中を通りぬけて都に上り、天子様の御機嫌を御うかがひ申し上げました。(凡そ三百六十年前の人)

二五 武田信玄

今から四百年ほど昔は、世の中がみだれにみだれて、戦のたえまがありませんでした。武田信玄は、その頃甲斐の國にゐた大將で、戦が上手で、兵隊の強いことは、日本一といはれました。この信玄が、同じく戦の上手な上杉謙信と戦つた、川中島の戦は、じつにはげしい花々しい戦でした。

二四 毛利元就

元就の供をして、嚴島神社へ参詣した家來が、若様が、中國一の大將になれますやうに」といふのと、元就は「なぜ日本一といふてくれぬ。望は大きくもつものだ」といひました。その時十二でしたが、少年の時から望が大きくて、後に、十三箇國の大將になりました。(三百六十五年前の人)

二三 菊池武光

武光は、楠木正成、新田義貞とおなじときに、天子様の御爲に懷良親王をまもつて、九州の筑後川で賊軍と戦ひました。賊は六萬、味方は八千、非常な苦心をして、さん／＼に賊を打破つて、大手柄を立てた忠義な人です。武光の父も、兄も肥後の大將で、そろつて忠義な人たちでした。(五百六十三年前の人)

二二 北畠親房

正成をはじめ、忠義な人たちが、次々と討死する中に、しまひまでのこつて、天子様をお守りしたのが、親房でした。しかも戦のひま／＼に「神皇正統記」といふりつばな本を書きました。この本には、天子様の尊いこと、わが國柄のりつばなことが、はつきりと書いてあります。(五百八十二年前の人)

二一 五郎正宗

日本刀は、切味のよいこと世界一といはれてゐます。刀は武士の魂といはれる位ですから、これを作る刀鍛冶にも、えらい人が澤山でました。中でも、五郎正宗は、一ばんえらいといはれた人で、その弟子にも、名人が澤山でました。なほ、正宗は、親孝行な人で、感心な話が澤山あります。(五百九十三年前の人)

二〇 新田義貞

新田義貞は、賊の大將北條高時のある鎌倉へ、せめ入らうとしましたが、賊のまもりがかたく、せめこむすきがありません。義貞は、黄金作の太刀を海に投入し、海の神にいのりました。すると、ふしぎや、海の水がさつとひいたので、そこからせめ入つて、ぞくをほろぼしました。(五百九十八年前の人)

一九 楠木正行の母

正行は、父正成が討死ときいて、悲しさのあまり、自分も死なうとしました。この時正行の母は、「この上は、父上のお志をついで、忠義をつくるのはお前です。父上の教を忘れましたか」といってとめました。このえらい母にそだてられた正行は、大きくなつてのち、父にもおとらぬ忠義をつくしました。(凡そ六百年前の人)

三六 徳川家光

徳川家光は、徳川三代目の將軍で、よい政治を行ひ、武術をすゑめて、世の中を大へんよくしました。又、徳川天下が三百年もつゞいたものをかためた非常に勇ましく、偉い人でした。(二百八十五年前の人)

三五 中江藤樹

小さい時、伊豫に學問にいってゐた中江藤樹が、母に孝行したくて、近江の家に歸ると、母から「學問の中途で家に歸るやうでは偉くないな」と、叱られて引返した。これは名高い話ですが、その後、藤樹はえらい學者になり、故郷へ歸り母に孝行をつくし、世の中の人から、近江聖人とうやまはれました。(凡そ二百九十年前の人)

三四 宮本武蔵

宮本武蔵の劍術は二刀流、それは自分でくふうしてあみだしたので、強い相手と、六十三回も試合をしました。一度も負けませんでした。劍術では天下第一といはれましたが、また、あもたいそう上手な人でした。(凡そ三百年前の人)

三三 春日局

春日局は徳川三代將軍家光の乳母でした。局は、家光を立派な將軍にしたいと、規則の大事なことを教へたり、學問、武藝をはげましたり、家光が病氣の時はおかけで神様にお祈りしたり、大へんな苦心をして、家光をそだてました。家光も局を本當の母のやうに大事にしました。(凡そ三百年前の人)

三二 伊達政宗

伊達政宗は、秀吉にも恐れられたほど、つよい大將でしたが、考へるふかい大將でしたから、いつも、秀吉や、家康を助けて、日本をおだやかにするやうに骨を折りました。しかし、志はとても大きくて、今から三百年も昔に、わさ／＼遠いローマまで、使をやつたことがありました。

三一 山田長政

山田長政は、三百年ほど前、小さな船でシヤムの國にわたりました。その時、シヤムは戦争の最中だったので、長政は、王様をたすけて大勝利しました。そのでがらで、王様の姫のむことなり、六昆といふ國の王様になりました。日本人で外國の王様になったのは、長政だけです。

三〇 徳川家康

徳川家康は、まはりのつよい敵に、いちめられながら育つた人です。それになれて辛抱よく、戦も上手になり、殊にちゑが深かつたから、だんだん領分をひろめ、後に江戸城にうつつて關東の領主になり、つひに天下を取り、幕府を開いて征夷大將軍になりました。なくなつてから日光の東照宮にまつられました。(凡そ三百二十年前の人)

二九 加藤清正

加藤清正は、戦につよく、なまけなく、忠義の心のあつた人でした。朝鮮で虎を退治したのは、名高いお話ですが、清正のつよくて、なまけ深いことは、朝鮮の人が今でも語り傳へてゐます。また、城をきづくことが上手で、金のいやちほこで名高い名古屋城の天守閣も、清正のきづいたものです。(凡そ三百三十年前の人)

二八 豊臣秀吉

豊臣秀吉は、尾張の國の百姓の子に生まれながら、後には、日本中をうちまわつて、太閤と呼ばれたえらい人です。その頃の日本は、つよい大將が、あちこちにばつてゐて、みだれにみだれてゐたのですが、秀吉は、それを片はしからせめ平げ、日本中を、天子様のおほせによくしたかふやうにしたのです。(三百三十九年前の人)

四五 大岡越前守
大岡越前守は、徳川八代将軍吉宗の時、二十年も江戸町奉行をつとめ、裁判の上手なで有名な人でした。越前守の裁判は、いつも正しく、なまけぶかいものでしたから、世の中の人から、神のやうにやまはれ「大岡さびき」といって、名高きお話が今でも、たくさん残っています。(百八十五年前の人)

四四 徳川吉宗
吉宗は、徳川八代目の将軍です。そのころの世の中の人々は、みんなせいたくになってゐましたので、吉宗は、自分から先になつて、節約の大切なことを教へ、武藝を盛んにしましたので、人々の氣持がひきまつて、世の中がよく治りました。(凡そ百九十年前の人)

四三 新井白石
新井白石は子供の頃、毎日三千字づつ手習をしました。ねむくなると、裸になつて、頭から冷水をかぶつて、又手習をつづけました。九歳の時には、もうお父様の手紙を代りにかきました。のちに、名高い大學者となり、将軍徳川家宣、家継の二代につかへて、りっぱな政治を行いました。(凡そ二百五十年前の人)

四二 近松門左衛門
近松門左衛門は、大へん物覺がよくて、一度よんだ本は決してわすれませんでした。のちに芝居本をかいて世に出すと、すぢが面白くて文章が美しいので、たちまち大評判となりました。ことに「國姓爺合戦」といふ浮城物語を、操芝居にかけた時は、わきたつやうな大人氣で、三年も大入がつづきました。(凡そ二百五十年前の人)

四一 貝原益軒
貝原益軒は、生まれつき體の弱い人でしたが、よく養生に氣をつけたので、後には體も丈夫になり、學問もぐんぐん進んで、とうとうその頃日本で名高い大學者となりました。益軒のかいた本は、文章がやさしくて、ためになるものでしたから、大へんよろこばれました。(凡そ二百五十年前の人)

四〇 大石良雄
大石良雄は、ちやうど勇氣もあるりっぱな武士でした。忠義の武士といへば、すぐにおもひ出される四十七士の大将として、御主君の仇吉良上野介を討つた話は、誰でも知っている有名な話です。良雄を始め四十七士の墓は、東京の泉原寺にあって、今でも、観音の煙のたえたことがありません。(二百三十二年前の人)

三九 徳川光圀
徳川光圀は、子供の頃から學問がすきでした。大ぜいの學者をあつめて「大日本史」といふ本を著したり、楠木正成のお墓を、濃川にたてたりして、日本の國のりっぱなことを、日本人はみな忠義でなければならぬこと、などを人々に教へました。光圀は、水戸黄門といひ、家康の孫にあたる方です。(凡そ二百四十年前の人)

三八 松尾芭蕉
俳句の神様とまでいはれてゐる松尾芭蕉は、いつも「よい俳句をつくるには、まづ心がかりっぱでなければならぬ」といひ、心がけを正しく、やさしく、月や花を友達のやうにしなから、多くのりっぱな俳句をつくりました。芭蕉のおかげで、俳句が始めて世の中にひろまりました。(凡そ二百五十年前の人)

三七 狩野探幽
狩野探幽は少年のころから、が上手で、後に名人となり、徳川家康をはじめ、大名たちからもをたのまれて、大それた名をあげました。京都に召されて、天子様のおすがたを、おかし申し上げたこともありまう。(凡そ二百七十年前の人)

五四 二宮金次郎
二宮金次郎の、小さい時の勉強ぶりは、誰でも知つてゐます。金次郎は、後にりっぱな人になり、けんやくを守り、よくはたらいて世のため、人のためにつくすことの大切なことを教へ、自分もまた、世のためになることを、たくさんしましたから、尊徳先生とうやまはれ、神にまつられました。(八十年前の人)

五三 瀧澤馬琴
馬琴は、面白い小説をかくの有名な人でした。一生の間に、百五十餘の小説をかきました。中でも一番有名なのは里見八犬傳(百五巻)で、すっかりかきあげるまでに、二十八年間もかかりました。しまひには目が見えなくなつたので、自分が口で話して、娘にかきとらせ、とうとうりっぱにしあげました。(凡そ百十年前の人)

五二 渡邊華山
華山が十二の時、お大名の行列の前を横切らうとして、お供のためにさんぐに打たれました。華山は大そう残念に思ひ、きつとえらくなうとそれから一心に勉強をはじめ、ゑかきとしても、學者としてりっぱな人になりました。大へん忠義の心にあつく、親孝行な人でした。(凡そ百年前の人)

六一 岡鐵舟
山岡鐵舟は、剣道の達人で明治維新の時、命をします。勤王の志をたて、大そう忠義な方、のちに明治天皇の侍従になりました。明治六年、宮城に火事がおこつた時、鐵舟は淀橋の自分の家から、五キロの道を一息にかけ通して、まさき天皇の「きげんをお伺ひ申し上げました。(四十七年前になくなりました)

六〇 岩倉具視
岩倉具視の家は、代々お公卿さまでした。具視は心のしっかりした、ちやうど深い人で、孝明天皇、明治天皇の御二方にお仕へ申して、明治維新の時、は、めざましい働きをしました。西郷隆盛、大久保利通などが、天子様のために十分の働きができたのも、京都に具視のやうなえらい人があつたからです。(五十三年前になくなりました)

五九 大久保利通
大久保利通は、西郷隆盛と同じく鹿児島で生まれました。二人は子供のころから仲のよい友だちで、大きくなってからも互に助けあつて、天子様のために忠義をつくしました。この二人と、もう一人長州の木戸孝允をくはへて、維新の三傑といひます。(五十七年前になくなりました)

五八 西郷隆盛
西郷隆盛は、日本ではじめての陸軍大將になりました。明治のはじめ頃、天子様の御意に、自分の身をわすれて忠義をつくしました。日本がりっぱな國になったのは、明治天皇のお力ですが、隆盛のやうな忠義な人が、天皇をお助け申した手紙も、わすれてはなりません。(五十八年前の人)

五七 木戸孝允
木戸孝允は長州(山口縣)の人です。はじめの名を桂小五郎といひ、劍術の名人でした。明治維新のとき、天子様のため一心に働きました。たびたび幕府の者にねらはれましたが、いつもあふなところを切りぬけて、とうとう今のやうなりっぱな日本の、基をつくつた、えらい人です。(五十八年前になくなりました)

五六 坂本龍馬
坂本龍馬は土佐(高知縣)の人です。小さい時からまけがらひで、始めて柔道を習つた時など、先生から何度なけられても、「もう一本」といひ、とひかゝつて、先生を驚かせました。大きくなつてから我が身をわすれて、天子様のために働き、海援隊といふをつくつて、新しい海軍のしかたを始めました。(六十八年前になくなりました)

六三 福澤諭吉
福澤諭吉は明治の初め、蘭學をたてた、えらい學者です。たび／＼外國に行つてきては、人々に新しい學問を教へ、この日本がもつとりつぱになるやうに、もつとお金持の國になるやうに骨ををりました。福澤先生が教へた人の中から、えらい人がたくさん出て、日本のために働きました。(三十四年前になくなりました)

六二 勝海舟
海舟は、江戸の町が、戦争のためにめちやめちやになるころを、西郷隆盛と相談してぶじに救つた、えらい人です。小さい時は、お家が貧乏だったので、人から字引をかり、それをうつして勉強したり、毎朝暗いうちに、王子橋の森へ行って、劍術の修行したりして、えらい人になったのです。(三十六年前の人)

七一 山縣有朋
山縣有朋は、小さい頃から武藝がすきで、十五の時、は、劍道、柔道、槍術の免許をとりました。明治維新の時、は、國のため一心に働き、日清日露の戦争にはすばらしい手柄をたて、元帥となり公爵を授けられました。日本の陸軍が、今のやうにりっぱになったのは、有朋のおかげで「陸軍の親」といはれてゐます。(十三年前になくなりました)

七〇 大隈重信
大隈重信は、佐賀縣の人です。小さい時お父様がなくなつて、お母様の手一つで育てられました。重信の、一番とくいなのは演説で、「あるんだある……」といふ面白い言葉をよく使ひました。二度まで總理大臣になつて、國のために働きました。また、早稲田大學をたて、りっぱな人を大ぜい世の中に出しました。(十三年前になくなりました)

六九 大山巖
大山巖は、西郷隆盛のいとこで、若い時から、たび／＼戦争に出て手柄をたてました。日露戦争の時、は、陸軍の總大將となつて、つよいロシアをみごとに打破り、その手柄で、公爵の位をいただきました。このゑは元帥が、敵の本陣の奉天城をせめてとつて、堂々とりこむ所です。

六八 乃木希典
乃木大將は小さい時、冬のある日、思はず「寒い」といひますと、お父様は「よし、では暖かにしてやる。」と仰しやつて、冷い水を頭からおかけになりました。かういふきびしいお父様に育てられた希典は、後に陸軍大將となり、旅順の攻撃ではすばらしい手柄をたて、たいそう國のためにつくしました。

六七 伊藤博文
伊藤博文は、小さい頃お家が貧乏だったので、よそに奉公しましたが、少しでもひまがあると、一心に勉強したので、だん／＼えらくなつて、後には、日本ではじめての總理大臣となり、その後、三度も總理大臣となつて國のためにつくしました。(二十六年前になくなりました)

六六 橋本雅邦
雅邦は十三の時に、あゝ先生に弟子入りしました。その先生は朝の早い人でしたが、雅邦は毎朝必ず先生よりも早く起きてゑを習ひました。大きくなつてから貧乏で苦しみました。どんな苦しい時でも熱心に勉強をつづけ、とうとう明治時代日本で一、二といはれるゑかきになりました。(二十七年前になくなりました)

六五 廣瀬武夫
廣瀬中佐は大分縣の人で、勇氣もなまけもあるりっぱな軍人でした。旅順港を攻めた時、自分の部下の杉野兵曹の姿が見えないのを心配して「杉野、杉野」と叫びながら、今にも沈みさうな船の中を、三度も跳けまはり、つひに戦死をとげましたが、そのりっぱな行は、日本軍人のお手本としてあふがれてゐます。

七一 野口英世
野口英世は、小さい時左手ががたがたはでしたが、お醫者の手當で、自由に使へるやうになりました。それを見た英世は「よし、僕もりっぱな醫者になつて、僕と同じやうに不幸な人を助けてあげよう」と決心し、「一生懸命勉強して、とうとう世界に名高い學者となり、大ぜいの人々を病氣からすくひました。(昭和三年になくなりました)

七〇 大隈重信
大隈重信は、佐賀縣の人です。小さい時お父様がなくなつて、お母様の手一つで育てられました。重信の、一番とくいなのは演説で、「あるんだある……」といふ面白い言葉をよく使ひました。二度まで總理大臣になつて、國のために働きました。また、早稲田大學をたて、りっぱな人を大ぜい世の中に出しました。(十三年前になくなりました)

六九 大山巖
大山巖は、西郷隆盛のいとこで、若い時から、たび／＼戦争に出て手柄をたてました。日露戦争の時、は、陸軍の總大將となつて、つよいロシアをみごとに打破り、その手柄で、公爵の位をいただきました。このゑは元帥が、敵の本陣の奉天城をせめてとつて、堂々とりこむ所です。

六八 乃木希典
乃木大將は小さい時、冬のある日、思はず「寒い」といひますと、お父様は「よし、では暖かにしてやる。」と仰しやつて、冷い水を頭からおかけになりました。かういふきびしいお父様に育てられた希典は、後に陸軍大將となり、旅順の攻撃ではすばらしい手柄をたて、たいそう國のためにつくしました。

六七 伊藤博文
伊藤博文は、小さい頃お家が貧乏だったので、よそに奉公しましたが、少しでもひまがあると、一心に勉強したので、だん／＼えらくなつて、後には、日本ではじめての總理大臣となり、その後、三度も總理大臣となつて國のためにつくしました。(二十六年前になくなりました)

六六 橋本雅邦
雅邦は十三の時に、あゝ先生に弟子入りしました。その先生は朝の早い人でしたが、雅邦は毎朝必ず先生よりも早く起きてゑを習ひました。大きくなつてから貧乏で苦しみました。どんな苦しい時でも熱心に勉強をつづけ、とうとう明治時代日本で一、二といはれるゑかきになりました。(二十七年前になくなりました)

六五 廣瀬武夫
廣瀬中佐は大分縣の人で、勇氣もなまけもあるりっぱな軍人でした。旅順港を攻めた時、自分の部下の杉野兵曹の姿が見えないのを心配して「杉野、杉野」と叫びながら、今にも沈みさうな船の中を、三度も跳けまはり、つひに戦死をとげましたが、そのりっぱな行は、日本軍人のお手本としてあふがれてゐます。

六四 九代目市川團十郎
九代目團十郎は、明治の初頃の役者です。わかい時から熱心に藝にはげんだおかげで、日本一の名人といはれるやうになりました。明治二十年には、かしくも明治天皇の御前で、自分の一番とくいの、勸進帳の辨慶の役をつとめて御覽に入れ、あつたおほめのお言葉をいただきました。

六三 福澤諭吉
福澤諭吉は明治の初め、蘭學をたてた、えらい學者です。たび／＼外國に行つてきては、人々に新しい學問を教へ、この日本がもつとりつぱになるやうに、もつとお金持の國になるやうに骨ををりました。福澤先生が教へた人の中から、えらい人がたくさん出て、日本のために働きました。(三十四年前になくなりました)

八一 諸葛孔明

諸葛孔明は、昔、支那が三つの國に分れて戦争をしたとき、蜀といふ國の劉備といふ人の家來になつて、はう／＼で戦つておりました。大それたおがふかく、戦が上手で忠義な人でした。後に蜀の國の大臣になりました。(凡そ千七百五十年前の人)

八〇 キリスト

キリストは、若い頃大仕事をし、家のために働いてゐましたが、三十歳の頃から、世界中の人にみんな仲よくして、正しく暮さねばならぬ、といふ教を世の人に説きはじめました。それから三年の後、キリストをにくむ人達のためにはりつけにされましたが、キリストの教は世界中にひろまりました。(凡そ千九百年前の人)

七九 シーザー

昔、ローマで、大へん政治が亂れて、たがひに争つた時があります。その時分に出たシーザーは、政治にもすぐれ、戦にもつよく、ほかの國々を降参させて、ローマの領分をアフリカまでもひろげた大英雄であります。(凡そ二千年前の人)

七八 アレキサンドル

アレキサンドルは、マケドニア王の子で、二十歳の時、お父さまがなくなり、代つて王となりましたが、ギリシャ、ペルシャ、埃及から、印度までせめて、大王とよばれました。マケドニアといふ國は、今はありませんが、大王のせめとつたほど、大きな國は、今までにないといはれてゐます。(凡そ二千二百年前の人)

七七 ソクラテス

ソクラテスはギリシャの大學者です。人間は、規則を守つて、心を正しく持たねばならぬ、と永い間世の人々に教へました。が、ソクラテスの教の分らぬ者からにくまれて、牢に入れられました。けれども少しもうらまず、すきはあつても逃げださずに、ちゃんと規則を守つて七十歳でなくなりました。(凡そ二千三百年前の人)

七六 孔子

「論語」といふ本には、世のため、人のためになる正しい道がかいてある。これは孔子の教です。孔子は、支那の魯といふ國に生まれ、一生の間、世の中のためよい政を行ふやう國々の王様に教へす／＼めてまはり、又何干といふ多くの弟子を教へ育した、東洋の大聖人です。(凡そ二千四百五十年前の人)

七五 釋迦

釋迦は、印度のカピラ王國の王子として生まれたのですが、修行を思ひつゝ城をぬけ出し、野や山で、さまざまの苦しい修行をして、世の中の人のために、尊い教をひろめました。釋迦の教を佛教といつて、日本にも國中にひろまつてゐます。四月八日は、釋迦の生まれた日で、どこかの寺でもお祭をします。(凡そ二千四百年前の人)

七四 東郷平八郎

東郷元帥は、口数の少い、どしりとおつた方でした。何か事をやらうといふ時には、まづ十分考へて、これならば……ときますと、こんどは風のやうにすばやくやつてのけました。あの日本海海戦でロシアの艦隊を一隻のこらすほほすことができたのも、このおちつきと、勇氣があつたからです。(元帥は昭和九年になくなりました)

七三 澁澤榮一

澁澤榮一は十四の時から、ももひきにわらばきといふかひ／＼しい姿で、お父様の商賣の手助をしながら勉強しました。大きくなつてから、日本の國をりつぱにするには、もっと商工業を盛んにせねばならぬ。といつて、日本に始めて銀行をたてたり、學校をたてたりして、國のためにつくしました。(昭和六年になくなりました)

九〇 ワシントン

小さい時、櫻の木を切つたことを正直にお父様におわびしたワシントンは、どこまでもつよく、正しい人でした。自分の國のアメリカが、イギリスにいちめられてゐるのを残念に思ひ、とう／＼イギリスと戦争して、イギリスの大軍を打破り、アメリカをりつぱな獨立國とし、第一代の大統領になりました。(凡そ百四十年前の人)

八九 フランクリン

「おや／＼、雷の鳴る最中に、尻をあげて遊んでるよ。ばかな男だなあ。」みんなはかういつて笑ひましたが、フランクリンは平気で尻をあげて、とう／＼雷は電氣だ。といふことを発見し、避雷針を發明しました。フランクリンは又、國の爲にいろ／＼と手柄をたてたので、アメリカの恩人といはれてゐます。(凡そ二百三十年前の人)

八八 ニュートン

ニュートンは、三百年ほど前に、イギリスに生まれた大學者で、學問の上に、すぐれた手柄をいくつもたてました。中でも、林檎のおちるのを見て、考へつたといはれる、萬有引力説といふのは、すばらしい手柄で、このおかげで、月や星のうごき方の細かい計算もできるやうになりました。

八七 シェクスピア

ロンドンのある劇場に、お客の馬を預る番人がありました。少しのお金をもらつて、「へいへい。」と働きながら、勉強をしてゐましたが、ある時自分芝居の話をかきました。その後いろ／＼なものをかいて評判となり、とう／＼世界で名高い文學者となりました。これが名高いシェクスピアです。(凡そ三百五十年前の人)

八六 ミケランゼロ

ミケランゼロは、彫刻をかくのと、彫刻をするのとが、何よりもすきでした。名高くなつても、氣をゆるめないで、一生懸命はげんだので、あも彫刻も世界で名高い人になりました。(凡そ三百七十年前のイタリヤ人)

八五 コロンブス

昔まだ、世界がまるといふことを知らなかつた頃、コロンブスは西へ／＼と航海して行けば、又もとのところへ歸ると考へて、スペインの女王の助で、小さな帆船をしたて、大西洋を西へ向つて出發し、非常に長い難儀をつゞけ、誰も知らなかつた西印度の島々や、アメリカ大陸を発見しました。(凡そ四百五十年前のイタリヤ人)

八四 ジャンヌ・ダルク

昔、イギリスとフランスが戦争して、フランス軍が非常に困つた時、フランスの田舎の娘、十六歳のジャンヌ・ダルクは、馬に乗つてフランス軍の先頭に立ち、勇ましく戦つて敵に圍まれてゐたオルレヤンの城を救ひ、フランスのためにつくしました。(凡そ五百年前の人)

八三 文天祥

支那の宋の國の文天祥は、敵の兵に捕はれました。敵の王様は、「お前を大臣にするから家來になれ。」と、ナメましたが、忠義な文天祥は、「宋王のお子様を王様にしなければ……。」といつて、どうしてもきませんので、とう／＼斬られました。文天祥は忠義なばかりでなく、文章も書も大そう上手な人でした。(凡そ六百六十年前の人)

八二 成吉思汗

成吉思汗は、わづか十三歳で、支那の北の方の蒙古の王様になりました。大それた戦につよく、支那、朝鮮はもとより、印度、中央亞細亞から、ヨーロッパのロシアまでせめて、すばらしく大きな國をたてた、東洋の大英雄です。東洋で、蒙古の領分にならなかつたのは、日本だけです。(凡そ七百年前の人)

九九 エヂソン

發明王といはれた、アメリカのエヂソンは、一生の間に、電燈、蓄音機、活動寫眞をはじめ、二千餘の發明をなしました。エヂソンは小さい時からがまん／＼よく、自分が一度「やらう。」と思つたことは、どこまでもやりとほす勇氣をもつてゐたので、こんなにすばらしい發明ができたのです。(昭和六年になくなりました)

九八 ナイチンゲール

百年ばかり前、イギリスにナイチンゲールといふ少女がゐりました。大それたさけぶかくて、よその犬が、けがをしてゐるのを見て、さつ／＼ほろ／＼たいしてやりました。大きくなつてから、看護婦となり、戦争だけがや病氣をした敵味方の兵士の看護をしてあげました。今の赤十字の親といはれてゐます。

九七 ビスマルク

ビスマルクは、人に負けることが大きらひで、人が一時間勉強すれば、自分は三時間やるといふ風でした。大きくなつて、ドイツの總理大臣にまで出世したとき、何とかして自分の國をりつぱな國にしたいと、いろ／＼と骨を折り、とう／＼望みどほりつゝいりつぱなドイツ國を作りあげました。(三十七年前になくなりました)

九六 リンカーン

お家の貧乏なリンカーンは、勉強しようと思つても、紙一枚、ペン先一つ買へません。そこでいろ／＼考へて、砂の上に字をかいたり、消炭で板の上に數字をかいたりして、一生懸命勉強し、とう／＼アメリカの第十六代の大統領となりました。又かはいさうなぐろんぼたちをたすけてやっただけです。(凡そ七十年前の人)

九五 ゲーテ

ゲーテはドイツの大詩人です。一生の間にりつぱな本を澤山かきました。その中でも一番有名なのは「ファウスト」で、今でも世界中の人々に愛讀されてゐます。ゲーテはまた、科學や政治にもすぐれた考をもつてゐて、あのナポレオンでさえも、非常に感心したさうです。(凡そ百五十年前の人)

九四 ベートーベン

ドイツの音楽家ベートーベンは、盲の少女のために、ピアノをひいてきかせてやりました。その時、窓からさしこむ月の光が大へん美しかったので、すぐその場で「月光の曲」といふすばらしい曲を作りました。この外にもベートーベンの作つた曲は、りつぱなものが多く、音楽の神様といはれてゐます。(凡そ百十年前の人)

九三 ジェンナー

ジェンナーは、あの恐い天然痘といふ病氣をふせぐ、種痘法(うあばうさう)を考へだしました。が、誰もいやがって、やってみようといふ者がいないので、自分のかはい／＼一人息子にたまして、自分の考に間違はないことを知りました。今日、天然痘にかゝらないですむのは、ジェンナーのおかげです。(凡そ百五十年前のイギリス人)

九二 ナポレオン

フランスのコルシカ島に生まれたナポレオンは、鐵のやうにつよい心をもつた人で、どんなことでも、やつて出来なことはな。と叫んで、いろ／＼苦しい目に出合ひながらも、少しもへこたれず、四方の國々をうち従へてとう／＼フランスを、ヨーロッパ第一の大國にした大英雄であります。(百十四年前の人)

九一 ネルソン

ネルソンは、イギリスの海軍大將で、今から百三十年ほど前、トラファルガルといふ所で、フランスとイスパニヤの聯合艦隊三十八隻を、めちやめちやに打破つて、自分の國を救ひました。イギリスの人たちは、ちやうど日本人が東郷元帥をやまふやうに、ネルソンをやまつてゐます。

一〇〇 ヒンデンブルク

「自分は、ドイツ國の北の守である。自分がある以上、北からくる敵は一足もドイツへ入れない。」かういつて、ボンと胸をたたくヒンデンブルクは、二十年前に起つた世界大戦ではドイツ軍の司令官となつて、ロシアの大軍をめぐりに打破りました。ヒンデンブルクは、それから二度もドイツの大統領にえらばれたえらい人です。